

平成29年12月6日

平成29年度 自立相談支援事業従事者養成研修(就労支援員) 資料

## 「くらしサポートセンターえべつ 就労支援における試行錯誤」

江別市社会福祉協議会

くらしサポートセンターえべつ

相談支援員 兼 就労支援員 櫻井 耕平

# 江別市について



僕の出身地です。

大泉 洋さん

## 1 位置

- 札幌市に隣接。札幌市の中心部までは車で約40分。JRで約20分。
- 新千歳空港からは車・JRともに約60分。
- 石狩振興局管内に位置(5市1町1村)。

## 2 人口(平成29年10月1日現在)

- 118,979人・56,456世帯
- 北海道内9位
- 高齢化率 29.1%
- 生活保護人数 1,512人(1,144世帯)  
保護率 12.7%

## 3 特色

- 札幌市のベッドタウン。
- 市内には5高校・4大学がある。
- 窯業(レンガ)が盛んであった時代があり、現在もレンガの一大産地。
- 農業地区・工業地区がある。

# くらしサポートセンターえべつ

## 【所在地】

〒069-0811

北海道江別市錦町14-87

江別市総合社会福祉センター内

## 【電話番号など】

TEL:011-375-8987(直通)

011-385-1234(代表)

FAX:011-385-1236

## 【インターネットなど】

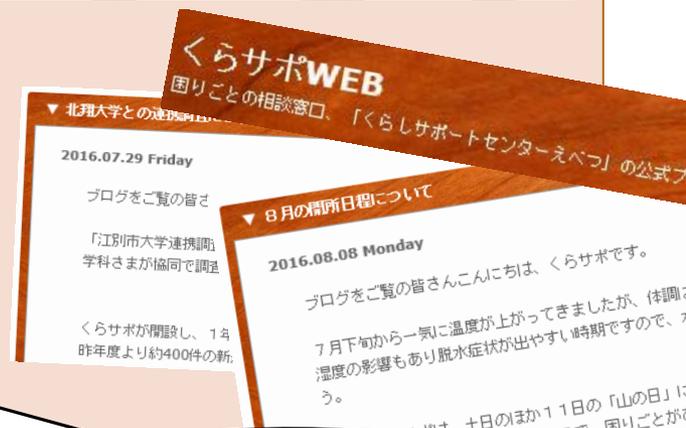
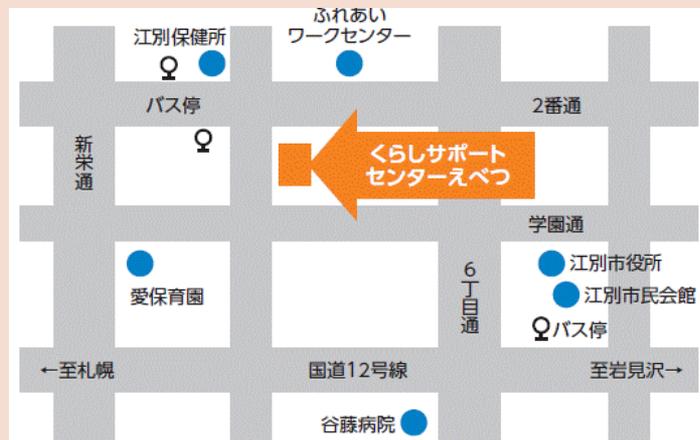
ブログ「くらすポWEB」 <http://kurasapo.jugem.jp>

メールアドレス [kurasapo@ebetsu-shyakyo.jp](mailto:kurasapo@ebetsu-shyakyo.jp)

## 【開所日時】

月曜日～金曜日 8:45～17:15

※土曜日・日曜日・祝日・年末年始は休み



「y」が入ります。

# 江別市の体制など

**H27. 4. 1** 暮らしサポートセンターえべつ開設(江別市社会福祉協議会委託)

主任相談支援員・相談支援員兼就労支援員の2名体制 ※モデル事業の実施無し

**H27. 6~12** 「江別市生活困窮者自立相談支援方策検討部会」…市役所各セクションから参加

次年度「就労準備支援事業開始」「相談支援員の増員」を市議会へ提言

⇒「就労準備支援事業」開始決定 相談支援員は「家計相談支援事業」を開始する事を  
含め正職員1名増員し3名体制へ

**H28. 5. 1** 就労準備支援事業所「しごとサポートセンターコクリ」開設

(NPO法人ワークスコープ委託)

**H28. 5. 24** 第1回 江別市生活困窮者自立支援ネットワーク会議 開催

**H28. 6. 1** 相談支援員兼家計支援員増員 3名体制に

**H28. 6. 24** 第1回 道央圏生活困窮者自立支援制度担当者情報交換会 開催

**H29. 1. 1** 無料職業紹介所認可

# 相談受付件数など

○H27年度 新規相談受理実件数 **320件** 延介入件数 **1,878件**  
就労に結び付き増収件数 **24件**

○H28年度 新規相談受理実件数 **255件** 延介入件数 **1,939件**  
就労に結び付き増収件数 **17件** 就労準備支援事業利用開始 **5件**

○H29年度 新規相談受理実件数 **184件** 延介入件数 **1,196件**  
就労に結び付き増収件数 **12件** 就労準備支援事業利用開始 **3件**

(9月末現在)

※就労……一般就労や障がいサービス利用など増収者件数

# 就労支援に係る取り組み①

## H27年度

○ハローワークの同行や受診の促しから障がい制度活用へのつなぎ

⇒ハローワーク内でフリーズしてしまう相談者の姿。

⇒丁寧な関わり～関係性の構築から受診の促しや同行。しかし、家族の理解が得られず家庭内での孤立が深まるケースも…。

○「釧路モデル」「岩見沢モデル」からの学び

⇒「半福祉・半就労」～中間的就労と居場所の概念(釧路モデル)

⇒「企業ニーズと相談者ニーズ」～ヒアリングの重要性(釧路モデル)

⇒「階層別支援体系と商店街」～つながりが育む力(岩見沢モデル)

⇒「共感から風景へ」～支援の普遍性と「伴走」の意味(岩見沢モデル)

# 就労支援に係る取り組み②

## H27年度

### ○くらサポ・カフェの開催

第1回「就職活動における心構えと準備」

第2回「映画鑑賞会」

第3回「家族懇談会」

### ○職員の名刺イラスト作画

漫画家を目指していた過去を持つ相談者。

⇒精神疾患の発症により自立支援医療受給者証申請。

⇒「何もできない、情けない自分」との発言。

⇒プラン内容に「職員の名刺用イラスト作画」。

⇒右イラストに至るまで12回の書き直し。一切の妥協無し。



# 就労支援に係る取り組み③

## 平成28年度

○無料職業紹介所の開設準備を開始(4月～)

⇒内部決裁・理事会決裁・定款変更・法務局への登記及び理事全員の履歴書提出などが必要であり、認可は早くとも平成28年冬にないそう・・・。

○就労準備支援事業の開始

⇒江別市版の中間的就労モデルを立案。自立相談支援機関・就労準備支援機関・企業との3者協定書を作成。3社と書類の取り交わし済。

⇒くらサポ・カフェは家族懇談会を残し終了とした。

○商業施設のアート作品作成へ

⇒名刺やカレンダーを目にした市内在住のデザイナーが、自身の監修するアート作品の作画に抜擢。

# 就労支援に係る取り組み④

平成29年度

【役割の創出】・社会参画機会や小さな成功体験の創出

・江別農福連携協議会との連携モデル

・市内商業施設でのアート作品

・PCプログラムの講師

・赤い羽根共同募金ピンバッジ

・くらしサポートセンターえべつ広報用カレンダー



# 就労支援に係る取り組み⑤

## 平成29年度

### 【就職の支援】・無料職業紹介所を中核とした取り組み

- ・企業ヒアリングの実施(求人登録・見学依頼など)

⇒業務の分解・切り出しから部分的な求人登録を提案

- ・北海道中小企業家同友会札幌支部江別地区会との連携(事業周知など)

- ・市内ネットワーク会議から専門部会「キャリアパスサポート検討委員会」の立ち上げ

### 【下期検討中】

- ・内職センター機能
- ・合同企業体験会イベント企画

# 就労支援の考え方①

## 本人

- 体力
- 経歴・経験・スキル
- 資格
- 好きなこと
- 活動時間（朝・昼・夜）
- 活動可能時間（数時間・半日）
- パーソナリティ・得意（苦手）なこと
- 病気・障がい
- 家族関係



## 企業

- 通勤時間
- 就業時間
- 職種・仕事の内容
- 職場の規模（人数）
- 職場の年齢層・性別割合
- 仕事のレベル（給与額）
- 就労形態
- 就労期間（短期・長期）
- 企業の理念・文化・風土

## 土 台

### ●日常生活支援

- ・生活パターン
- ・健康(病気)
- ・金銭管理
- ・家族関係
- ・住環境(+移動)

### ●社会生活・精神的支援

- ・居場所
- ・仲間
- ・コミュニケーション能力
- ・交通機関の利用
- ・制度申請や活用

### ●企業支援

- ・環境整備(最適化)⇒
- ・社員向け研修
- ・PR協力や表彰
- ・体験の共有

- ・本人と従業員の関係
- ・コミュニケーション方法
- ・作業効率化
- ・ハード面の配慮

### ●支援者支援

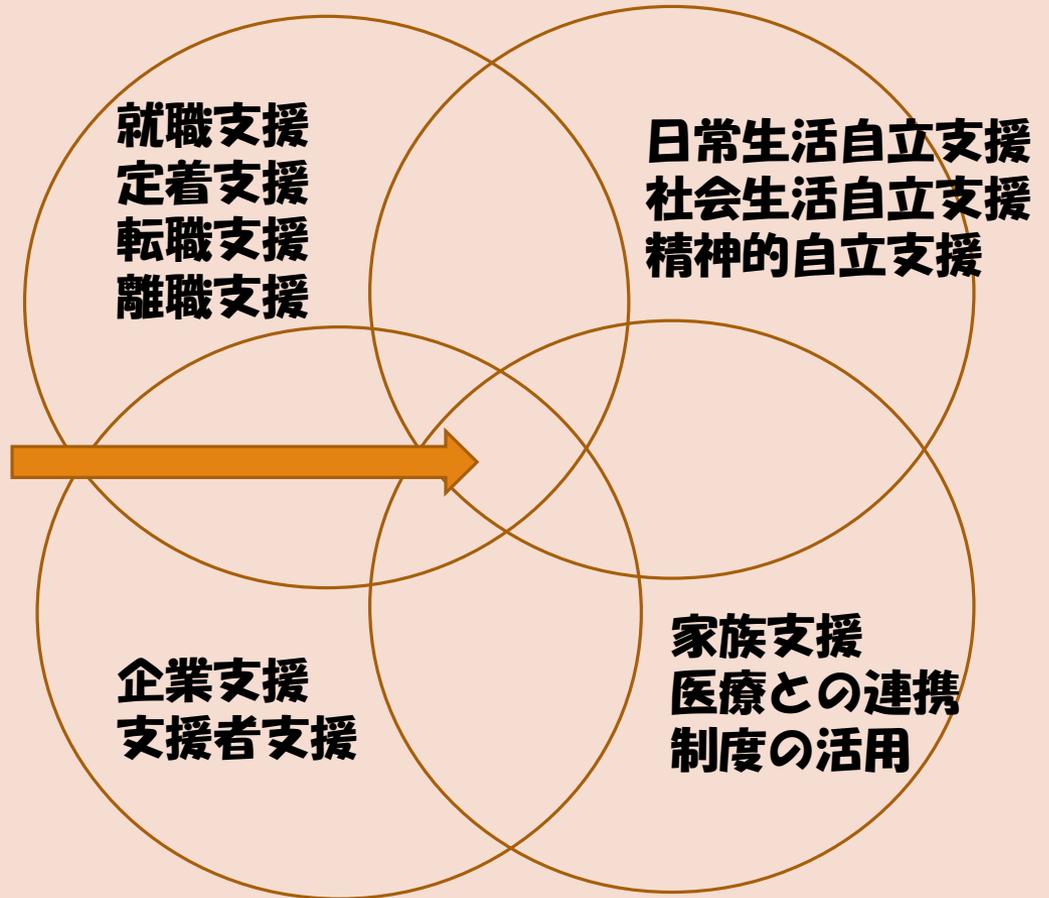
- ・他機関参画
- ・管轄外行政との連携
- ・孤立予防
- ・出口メニューの共有

# 就労支援の考え方②

## 就労支援の視点

重なり合うポイントを、本人の個別性  
(能力・個性・特性)と捉える。

それは換言すると「可能性」と置き換  
えることが出来る。



# まとめ

私が考える「就労支援」とは……

- 「**労に就く**」ことは目標ではあるが「**目的**」ではない。その過程を通じた「**応援**」である。本人が自分の手で掴み取らない限り、本物の自信は生まれない。
- 「**多様性**」とは、「**個別性**」を追求し続けた「**結果として**」生まれるものである。「**就労＝就職**」と定義されないのはその為ではないか。
- **無料職業紹介事業等**を通して行う企業・団体訪問では、「**求人ニーズ**をどう埋めていくか」「**相談者が輝ける場**をどう作っていくか」という2つの視点を持つ事が大切である。

それらを統合して

**「舞台は人生、主役はあなた」** と、傍らで信じ続けることだと考えます。

## 課題(就労支援)

- 就労支援員として配属されているが兼務であり、相談支援員としての比重が大きい現状がある。その為、企業・団体訪問等に割り当てる時間が限られている。
- 就労準備支援事業利用検討をするが、交通費や生活費の不足などで利用を断念し、生活保護へのつなぎに至るケースが散見されている。  
※生活保護受給者の利用は江別市では実施していない。
- 全国平均よりも多くの相談件数を受理しているが、まだまだ氷山の一角であるような感触を持っている。多種多様な機関・団体へ活動報告を通してアウトリーチに努めているが、対象者との接触機会の拡大方法については悩んでいる。

# 社会福祉協議会本体事業との連動

○「コミュニティファンドえべつ」構想～H30年度より開始を目指す

・必要物品貸与・寄付事業

⇒協力企業・団体の開拓や協力要請

⇒「食品循環ネットワーク活動」へ食料品を要望

・生きがい支援事業

⇒コミュニティファームの実践に向けた準備

⇒家族懇談会の実施、展示会、チャリティー企画等の立案

○緊急資金貸付への対応

⇒江別市社会福祉協議会「福祉金庫貸付事業」の規程改正を打診し、

4万円を上限に「保証人無し」での貸付を可能とした。（家計支援フ

ランを作成し償還可能と判断した方限定）

# ご清聴ありがとうございました！

数字も内容も、フロントランナーの皆さんにはかないませんが、全国の皆さんと一緒に、悩みながらセンターとしても個人としても成長していけたらと願っています。

ご不明な点は、いつでもご連絡ください！

櫻井個人アドレス: [k-sakurai@ebetsu-shyakyo.jp](mailto:k-sakurai@ebetsu-shyakyo.jp)

くどいですが、「y」が入ります(笑)

9月に開催された「第4回 道央圏(+全道)生活困窮者自立支援事業担当者情報交換会@苫小牧」には80名以上の担当者が道内から集結。